

鴻池運輸株式会社 関東中央支店 綾瀬営業所

1. 事業場概要

食料品を製造する工場内での原材料等の荷役作業や梱包容器の準備作業等を受託する。そのため業態は製造業であるが、フォークリフトを使用した構内の荷役作業も少なからずある。

当該事業場の労働者数は約 160 人、うちパート労働者は約 5 割を占める。

2. 安全衛生基本方針

2021 年度に関東中央支店が定めた「安全と信頼を礎に強靱な経営基盤を確立する」という支店方針を受け、具体的な安全方針として「重大労働（挟まれ巻き込まれ、墜落転落、フォークリフト加害）および転倒等の不注意・低感度労災のゼロ化」を定め、職場間パトロール、ヒヤリハット活動等による危険の感度向上を重点課題とする。

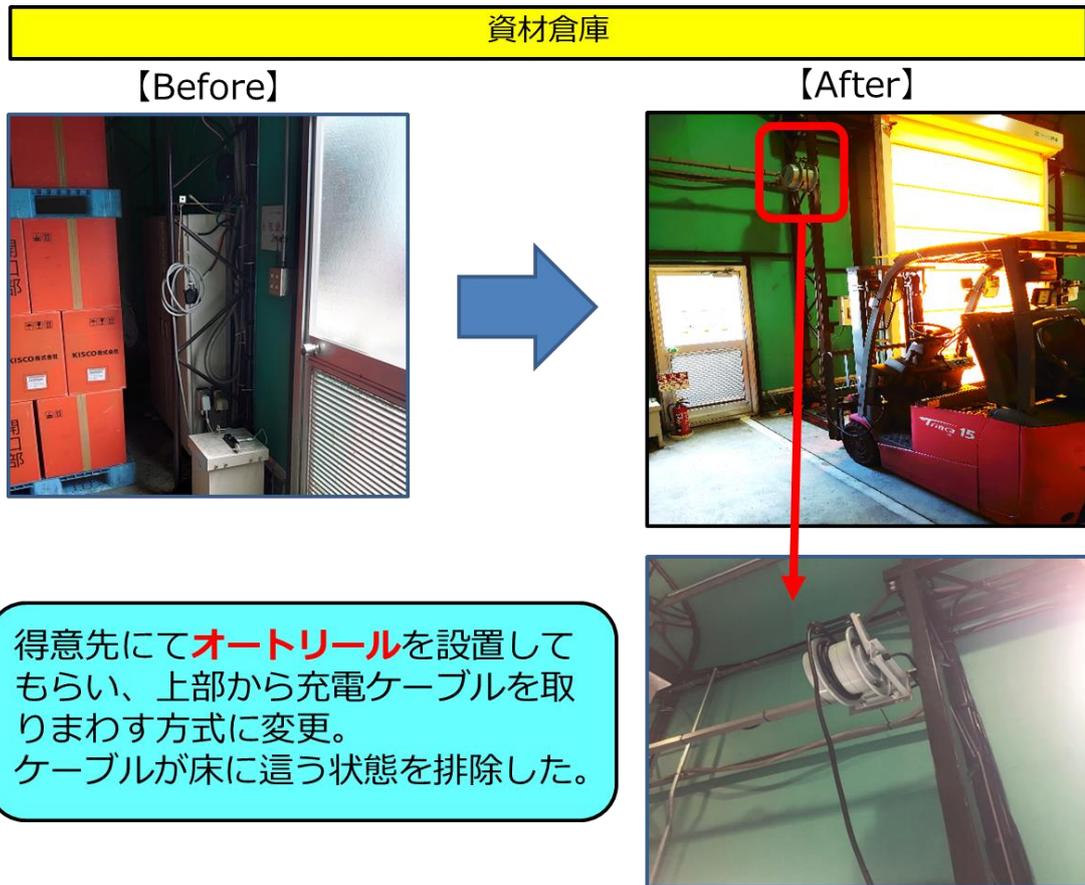
3. 安全衛生活動

労働者の危険感受性を高めるためにヒヤリハット活動を軸とした安全衛生活動を展開する。この活動は 10 人程度の作業班単位で実施し、パート労働者を含めたすべての労働者が毎月 1 件以上のヒヤリハット事例（想定事例を含む）を発表し、併せて、各自が「私の改善対策」という改善案を提案する。

提案された改善案は、毎月開催する安全衛生委員会で調査審議し、「見える化」を含めた具体的な改善対策を決定する。

4. 転倒防止対策

(1) ケーブルのからまり防止対策



【改善後の現場の声】

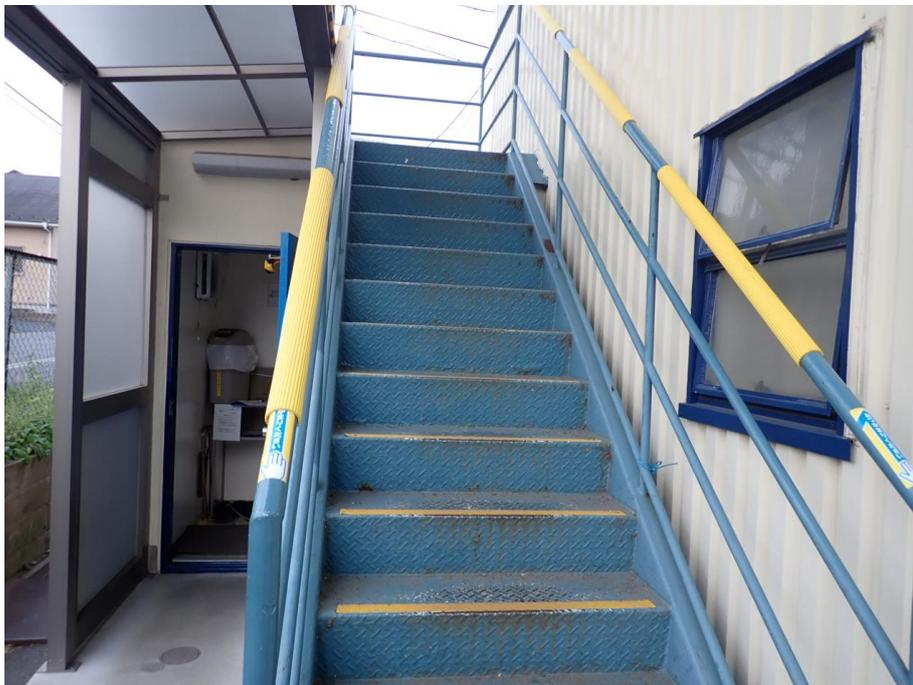
改善前はケーブルが床に這って歩くのに邪魔になることがありましたが、オートリールで収納して転倒リスクが解消しました。

さらに、以前はフォークリフトの停車位置や向きがまちまちで、ケーブルの接続に時間を要することがありましたが、白線でフォークリフトの停車位置を決め、爪をテント側にして停車させることによって作業効率が改善しました（中山サブリーダー）。

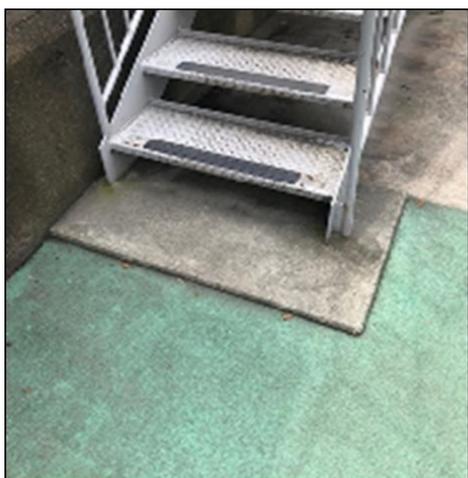


その他の場所についても、収納フックとケーブル長さを見直し、足元にケーブルがからまないようワンポイントシートにより注意喚起する。

(2) 階段の踏み外し対策



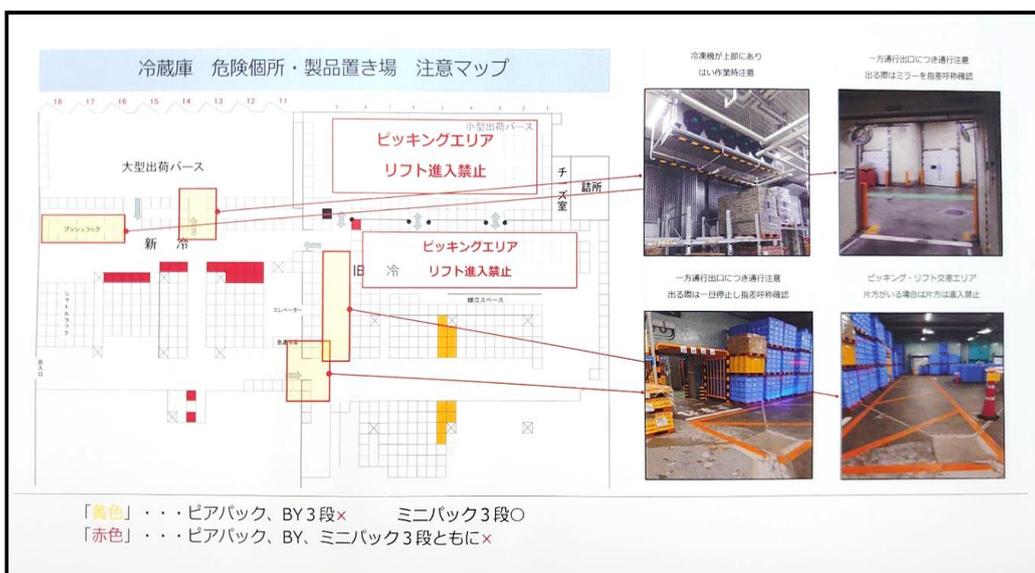
事務所に向かう階段の手すりは「夜勤の後に階段を上っているときに足を踏み外しそうになり、とっさに手すりをつかんだが、雨でぬれていたため、手すりが滑って転倒しそうになった。」との現場の声を受け、雨でもすべらない手すりカバーを設置する。



階段の基礎のわずかな段差をオレンジに塗り、さらに床に「段差注意」を掲示。また、得意先にて建物の入口部分にも手すりを設置。

(3) 工場内のマップによる注意喚起

工場内での安全を確保するためのマップを作成し、フォークリフトの侵入禁止エリア、出入口付近のパレット段数の制限範囲などを周知する。



5. 今後の課題

ヒヤリハット活動や職場の巡視などによって改善対策を講じているものの、リスクの見落としや慣れをなくすことに苦労している。何気ない作業の中にも危険がひそんでいるという理解を深めるため、労働者一人一人の危険感受性の向上に向けた取り組みを進めている（石垣営業所長）。